

日中交流情報中心

発行所 日中交流情報センター

〒400-0031

山梨県甲府市丸の内 2-30-5

甲府電化ビル 3FTel(Fax) 055-223-3134

E-mail:jpch-zhongxin@peace.ocn.ne.jp.

[インタビュー]

今回は四川省からの派遣職員王夢迪さんにお話をお聞きします。

Q: こんにちは。まず、いつ山梨に来たのかを伺います。

A: 去年の4月に派遣されて、山梨県庁で仕事をしています。四川省の綿陽市では、旅游発展委員会（旧称は旅游局）で仕事をしていました。出身は成都です。一昨年広東省の中山大学を卒業し、綿陽市に採用され、二年目で山梨に派遣されて来ました。

Q: 県庁では、主にどんな仕事をされているのですか。

A: 私は、国際観光交流課で仕事をしていますが、主な仕事は三種類に分けられます。

まず、四川省との交流活動のサポートです。四川省の外事弁公室には日本語の出来る職員がいるのですが、緊急の場合などは、ウィーチャットを使い、山梨県の職員とコミュニケーションをとっています。中国ではプライベート以外にも、仕事場でウィーチャットを使って連絡を取り合うことが、ごく普通に行われています。二番目に翻訳です。国際観光交流課の内部の中国語関連資料のほか、山梨県内の中国に関する資料の翻訳、およびチェックです。例えば、観光資料、アンケート調査、リニアの中国語版紹介映像、中国語標識類、富士登山の注意事項、および入山料（富士山保全協力金）、中国人留学生の卒業後の意識調査などです。公文書の翻訳は厄介です。日本語を中国語にするのはまだいいのですが、その反対は大変です。自分でやってみて、そのあと中国語が堪能な同僚に直してもらっています。

三番目は山梨の観光を公式観光サイト、そして中国の新浪（SINA）のブログで中国に紹介しています。

Q: 仕事内容の範囲が広く、量も多そうで大変ですね。

A: そのほか、四川からの訪問団などを迎え、案内することも私の仕事です。

Q: 去年は四川省の林野局から3人の専門家が研修に来ました。10月には教育庁の友好交流団が来て、小中高を視察し、山梨の教育への理解を深めました。今日はイトーヨーカ堂日本修学旅行団が来て、山梨学院大学小学校の小学三年生との交流の案内をしたばかりです。

イトーヨーカ堂は、現在四川省に7店舗あります。成都での発展は目覚ましく、営業成績も抜群ですが、と同時に、成都市内で「友愛学校」という支援活動をしていて、成都周辺及びへき地の学校に、運動場や食堂を建てるなどの援助を行っています。去年は20周年記念ということで、成都市民への感謝の意を表す意味もあり、日本への修学旅行の募集をしたところ、500人の学生が応募し、その中から23人が選ばれました。そして日本の科学技術、文化の発展を見学、体験し、また日本の子供たちとの交流をする旅行団として、来日したのです。

山梨県での交流では、踊りやピアノの演奏などを披露し、交流の後は甲府のイトーヨーカ堂を見学しました。

昨年は、四川省外事弁公室が山梨県の高校生 20 人を招待し、四川省の学生と交流をしました。高校生たちは 2 日間成都市の外国語学校の学生の家にホームステイをし、英語や日本語を学ぶ生徒たちから温かく迎えられました。

山梨県の高校生は報告書のなかで感想を述べ、ほぼ共通する 2 点のことが挙げられています。一つ目は、現在の日中両国関係はあまりよくないので行く前はとても不安だったけれど、とても暖かい歓迎を受け、考え方を変えたこと。第二に四川省は世界的にも有名な観光地でもあるけれど、一方で東京にも劣らない発展をしていて、驚いたことです。「百聞は一見に如かず」と言った内容に、交流の大切さが語られていると思いました。私も同じようなことを思っています。もし日本に来なかつたら、日本の状況、また日本人の考え方が、きっと理解出来ずにいたでしょう。

Q: 発展を続ける中国では、人々は、必死に頑張っていますが、もう頂点に達し、これ以上を望めない日本では、若い人は希望をなかなか持つことが出来ず、親たちと同じレベルの暮らしが出来ればよいと思っています。

A: 今の日本の若い人達は、生まれた時から、医療にしても、衛生面、教育にしても生活水準はもう十分なレベルだったので、その「時代の変化」ということがわからないのかもしれませんが。私は日本の若い人たちには、精神的なゆとりがあるように思います。中学生、高校生も、将来自分は何をしたいのか決めていて、その為には、何をしなければならないのか考えています。中国の若い人たちはそんなに深く考えていません。ひたすら頑張っています。それは、もしも親の代よりも上を行かなければ、それは落ちこぼれたということになるからです。

最近流行っている言葉で「うかうかしていると、時代に置いて行かれる」というのがあります。音楽を聴くことをたとえにとれば、私がまだ子供だったころは、確かに、音楽テープでした。次には CD、そして Walkman を買って、さらに、iPod になり、今はスマートホンのアプリで聞いています。ここ十数年中国国内の変化は、目まぐるしいものがあります。だから今はたとえ年寄でも、買い物したら、スマートホンで支払いが出来ないようでは、時代についていけないのです。

Q: 山梨県庁での約一年間、いろいろ経験し、収穫は多かったと思いますが、いくつか紹介してもらえますか。

A: まず第一に日本語、特に仕事で使う言葉を学べたことです。日本語の動詞の変化は外国人にとっては、とても難しいものです。話を始めて、最後に「Yes」か「No」がわかるというのが、日本語の特徴ですが、外国人にとっては、とても厄介です。

二番目に、日本の行政組織について大まかな、理解を得たことです。技術職（専門職）を除く、一般的な地方公務員は、ある部署で数年間仕事をしたあと、別の部署に配属されます。仕事内容については、大きな差はあまりないようです。話によると以前はそうではなく、一人の人が同じ部署で長い期間仕事をしていたそうです。その結果、汚職などの問題が発生し、その防止のために今の方式に変わったということです。この点中国は違います。中国では地方政府と民間との関係は密接ですし、公務員は成績、成果を要求されるので、もしも多少なりとも昇進を望むならば、都市建設にしる、農村の発展に関わる問題にしる、必ず結果を出すことを求められます。

Q: 汚職が起きやすいのではありませんか。

A: 現在は、本当に厳しくなっているので、さらに努力が求められているのです。

三番目は、日中の文化の差についての理解が深くなったことです。日本人はなかなか自分の意見を直接言いませんね。中国人は、はっきり言います。ですから、日本に来てから、相手の考え方がよくわからない時、場合によっては、「すみません、もう一度、わかるように、はっきり言ってもらえませんか。」とお願いしました。

日本人は間違ふことを嫌いますね。だから、まず黙っている。他人の考え方について気にしすぎて、その結果自分にプレッシャーをかけてしまいます。中国人は他人の考え方にそんなに気を使いません。違う言い方をすれば、思ったことは、すぐ口に出したり行動に移します。日本人はあれこれといろいろ考え、慎重でいいのですが、チャンスを逃すことにもなりかねません。

中国人は賑やかなことが好きで、友達とのつきあいも多くなるのですが、反対に日本人は好みませんね。日本では、お互いに距離を保っていて、友達付き合いがなかなか難しいです。自分は自分、他人は他人で分けていて、それはそれでいいとこともあります。日本人の中ではとても普通なことだと思いますが、この距離感は私にとってはちょっと寂しいし、そっけない感じがしてしまいます。今は日中の文化の違いが理解できます。しかし「理解できること」と「受け入れる」こととやはり違いますね。

日本人は礼節を重んじます。他人に迷惑をかけたくないと思っていて、これはいいことなのだけれど、しかし中国人は逆に、あまりにも迷惑をかけないことは、友達甲斐がないと感じます。迷惑をかけあってこそ、感情が深まるのです。もしも迷惑をかけないのなら、関係がないも同然になってしまうということになります。日本の家庭では、親子の間で、よく「ありがとう」、「ごめんなさい」、などとよく言います。来たばかりの時は、ちょっと驚きました。中国では、誕生日など特別の日に「お母さんありがとう」などと言うくらいです。

Q: 日中間に差がこんなにあるわけで、仕事上でのトラブルも結構あるのではありませんか。

A: 私は国際観光、国際交流の仕事をしてから、民間の交流組織の存在も知ったし、国際交流の仕事をしている人たちも責任をもって努力しています。私も仕事をしながら、国際交流が大変なことをつくづく感じます。新しい課題と方向性とは生まれたということですね。以前私は日本人は私たち中国人と顔立ちが似ていて、漢字も使うし、大きな違いはないと思っていましたが、全く違いました。山梨県で一年間研修する機会を得たのは、とても貴重だったと思います。

Q: 王さんは中国で観光関係の仕事をしているのですが、日本では、どんなところに行っていますか。印象に残ったところなどもお聞きしたいです。

A: 東京、鎌倉、大阪、京都、奈良、金沢、富山、四国の直島等です。直島の大きなカボチャ、(草間弥生作品)などのアート作品はとても魅力的でした。山梨もいろいろ行きました。やはり一番印象が強いのは長野県でのスノーボーです。初めてでしたので、スクールに入りました。日本語が十分には聞き取れなかったのですが、コーチの動きを見ながら、なんとか理解することが出来ました。長野のスキー場はいいですね。四川省は山の斜面が急で、雪質も固く、次回の冬季オリンピックが開催される河北省の張家口のスキー場は、寒いし、風は強いし、一日のリフト券も600元(約10,000円)と、日本より高いのです。次回また日本に来て滑られたら最高ですね。

Q: 中国人に山梨の観光地を薦めるとすれば、どこがお薦めですか。

A: まず、富士山と河口湖。夏の清里、平山郁夫シルクロード美術館。山梨の果物もおいしいですね。山登りの好きな人には西沢溪谷がお薦めです。

Q: 四川省の観光地も、見所がたくさんありますが、紹介してください。

A: やはり九寨溝ですが、去年の地震がありました。三月から一部分、観光が可能になりましたが、自然は人工的な方法で修復できませんから、毎日時間か観光客の人数を制限するとういことです。成都から綿陽を通り、4-5時間で行ける高速道路の工事が始まっていたのですが、去年の地震のため、開通が遅れています。ほかには黄龍、パンダ基地(大熊猫繁育基地)、樂山大仏、峨眉山、阿壩、康定などです。

チベットへ続く国道318号線沿いは少数民族が多く住む地域で、景色がとてもきれいなところですよ。成都の人民公園の茶館で、お茶を飲みながら一休みするのもいいと思います。お茶を飲む以外にも、退職した老人たちがマージャンや日向ぼっこ、踊り、歌をうたっているのを見たり、自分も一緒に体験するのもいいですね。

人民公園には「相親角」と呼ばれる一角があります。両親が子供の結婚相手を探すために、結婚条件を書き出して、公園のちょっとした場所、歩道などにおいてあるのです。賑やかですよ。

Q: 面白そうですね。機会があったら、成都の人民公園に行って、一般庶民の老後の生活を感じてみたいですね。今日はありがとうございました。

A: こちらこそ、ありがとうございました。皆さん、ぜひ四川省に遊びにきてください。

2月26日 日中交流情報センターにて

《これからの予定》

- 中国語でクッキング 「ちまき作り」 6月を予定
- 朝日町花水木祭り参加 月餅/マーホア販売

《事務局日誌》

- 二胡教室 1/22, 2/12, 26 3/12, 26 4/9
- 紹介山梨 1/29, 2/5, 19 3/5, 19 4/2
- 医療通訳研修会参加 1/20 2/17
- 定例会 2/12
- 生活相談その他 1/31, 12/7,
- 「中国語で遊ぼう」 4/1, 8
- 春節交流会 着物体験/交流会 2月25日(中央公民館にて 参加者43名)
- インタビュー 「四川省からの派遣職員王夢迪さん」

2月26日(日中交流情報センターにて)